

国立健康・栄養研究所に係る要求水準書

平成 31 年 3 月

国立研究開発法人
医薬基盤・健康・栄養研究所

国立健康・栄養研究所 新庁舎(大阪・健都)の基本仕様

構造	鉄骨造(一部鉄筋コンクリート)
所要面積	所要面積のとおり。
駐車場	来客・荷物用 4 台(内 2 台は大型車可)
付属施設 (共用施設)	<p>受付・警備員室 来客ロビー・待合室 来客面談室・会議室 リフレッシュスペース・給湯湯沸室 トイレ・多機能トイレ ※館内は全面禁煙とし、喫煙室は設けない。</p>
付属施設 (専用施設)	<p>倉庫・機材備品庫・保管庫 サーバー室(健栄研全体の情報システム) 実験系廃棄物保管室 ※館内は全面禁煙とし、喫煙室は設けない。</p>
実験室	<p>放射性同位元素(RI)は扱わない。 安全キャビネットまたはクリーンベンチの設置も可能 ドラフトチャンバーの設置も可能とする。 実験用分電盤、コンセント等の電気設備及び純水、窒素ガス等のユーティリティー設備の仕様は共通化する。</p>
共用実験施設	<p>運動フロア(1 階、天井高 3.5m、高弾性衝撃吸収床) 運動負荷(トレッドミル)実験室(1 階、天井高 3.5m) ヒューマンカロリメーター(天井高 3.5m) 低温(4℃)実験室 医学検査室については診療所としての開設許可が得られること 細胞培養室 暗室ほか</p>
天井高	3.0m(トレッドミル、ヒューマンカロリメーター、運動フロア等については 3.5m)
床	<p>実験室は、耐薬品性・耐水性長尺ビニル床シート張り 執務室は、IT 対応オフィスフロア 運動フロアは、高弾性衝撃吸収床材(JIS A 6519「体育館用鋼製床下地構成材」85G 以下の床材)</p>

壁	化粧ケイカル板
ドア	両開き扉(W 2000mm×H 2100mm) オートロック機能を有し、原則、常時施錠する。ただし、個別に常時開放とする設定もできること。 IDカードによる施錠及び解錠ができること。 必要に応じて、特定の居室への入退室者・時刻が記録できること。
バルコニー	空調機等の室外機設置スペース、ドラフトチャンバー等のダクト設置スペース等を確保するため、実験室の窓外にバルコニーを設置すること。
許容積載荷重 (「備考」1 参照)	700kg/平方メートル、1階のみ 1,000kg/平方メートル
空調設備	空冷ヒートポンプパッケージエアコン(個別方式) 実験室については日本薬局方における常温(15～25℃)を常時維持できること。 執務室については、15℃～28℃を維持できること。 居室ごとに、温湿度センサーを設置すること。 空調設備は 24 時間稼働可能とすること。
換気設備	全熱交換型換気扇(第 1 種換気) 実験室については、湿式スクラバー又は乾式スクラバーを室内に設置するほか、ドラフトチャンバーの設置に対応した吸気設備を設けること。スクラバーで無害化した気体は、ダクトを通じて、屋上に設置した換気口から概ね北ないし西方向へ放出すること。なお、屋上の周囲にはガラリを設置すること。
給水	給水配管 25A を天井バルブ止め×4 温水の供給が可能であること。
排水	生活系排水、実験系排水及び湿式スクラバーからのドレン排水の 3 系統の排水設備を有すること。 (生活系・実験系排水) 床下に排水管 65A キャップ止め×4、窓際壁面に 65A プラグ止め×4、 床下に排水管 65A プラグ止め(ピット内) 中央に排水トレンチ(ピット) 床リザーブドレン(実験排水対応可能) (湿式スクラバーのドレン) スクラバーを設置する場所からの排水管、PH調整を行うピット等排水処理設備一式 排水管は酸及びアルカリに対する耐腐食性を有していること。
排水処理	実験系排水には、3 次洗浄水以降の比較的有害性の低いもの(pH6～8)のみを流

<p>(「備考」2 参照)</p>	<p>す。</p> <p>実験系排水は施設内で凝集沈殿法またはフェライト法等により処理(塩素等による微生物の不活化処理を含む。)したうえで、水質検査を実施し、基準を満たしていることを確認したうえで、公共下水道へ排水する。</p> <p>湿式スクラバーのドレンは専用の排水管を通じて、中和槽等の排水処理装置により処理した後、基準を満たしていることを確認したうえで、公共下水道へ排水する。</p> <p>生活系排水は、水質検査を実施し、基準を満たしていること(有害物質が混入していないこと)を確認したうえで、公共下水道へ排水する。</p>
<p>固形廃棄物 (「備考」3 参照)</p>	<p>生活系廃棄物と実験系廃棄物はそれぞれ分別し、施設内に一時保管したうえで、自治体または外部業者に処理を委託する。</p>
<p>電気容量</p>	<p>単相:20KVA(各居室) 3相:15KVA(各実験室) 盤レベル 単相 1.0KVA/m² 三相 1.4KVA/m² (需要率 60%)</p>
<p>非常用電源</p>	<p>電力会社からの電源供給が途絶えた場合に備えて、研究所における必要最低限の電力需要を少なくとも 2 時間は供給することができる自家発電設備を有すること。</p> <p>自家発電設備は消防法、建築基準法等に定める基準を満たしていること。</p>
<p>単相</p>	<p>100V 及び 200V 壁付コンセント、天井コンセント(ファクトライン)、実験台コンセント 各室分電盤の主幹ブレーカー(単相)は漏電遮断タイプ</p>
<p>3相</p>	<p>壁付コンセント 各室分電盤の主幹ブレーカーは漏電遮断タイプ</p>
<p>照明</p>	<p>LED蛍光灯 600 ルクス(室内照度)以上。実験室については、600~1,000 ルクスで調節可能とする。</p>
<p>通信 (「備考」4 参照)</p>	<p>電話(メタルケーブル引込み・配線) インターネット(光ファイバーケーブル引込み) インターホン設備</p>
<p>ガス設備</p>	<p>バルコニーに一次側本管設置 実験室には、各実験台までの二次配管</p>
<p>エレベーター</p>	<p>積載質量:1000kg/最大定員:15 名 出入口寸法:W 1200mm × H 2200mm カゴ内法:W 1600mm × D 2100mm × H2500mm バリアフリー対応</p>

セキュリティ	<p>正面玄関及び各居室の入口は、IC カードキー方式にて入退室管理。</p> <p>正面玄関ロック時は、各居室から遠隔操作にて解錠可能。(来訪者は、正面玄関からインターホンにて各居室に連絡可能)</p> <p>セキュリティエリアの外に来訪者用の面談室を設け、不審人物等に対応する。</p>
ユニバーサルデザイン	<p>床段差のないバリアフリーデザイン</p> <p>多目的トイレの設置(各階)</p> <p>バリアフリー対応エレベーター</p> <p>職員及び研究対象者(実験被験者)が車椅子で館内を移動すること想定した構造とすること。</p>

【備考】

- 1 許容積載荷重についてはあくまでも目安であり、各階の具体的な数値は各階の構成に合わせてご提案ください。(1階はヒューマンカロリーメーター等負荷の大きな施設の設置を想定し、他階よりも大きな数値としております。)
- 2 現像液、定着液、有機・無機系廃液(強酸、強アルカリ、重金属等を含む)、一次・二次洗浄水などの実験廃液は排水設備には流さず、施設内に一時保管した上で外部業者に処理を委託する予定です。
- 3 実験系廃棄物は、滅菌・消毒を行った上で、外部業者に処理を委託する予定です。
- 4 電話回線やインターホン設備は要求水準により建物内における配線や通信手段を用意することとし、インターネット環境については建物への光ファイバーケーブル引込み以外のプロバイダ契約や回線使用料は国立健康・栄養研究所が負担します。
- 5 国立健康・栄養研究所が専有する部分の光熱水費、清掃費、廃棄物処理費、同研究所が対応する設備品のメンテナンス費等は、同研究所が負担しますが、具体的な費用負担の在り方については、事業者決定後に同研究所と協議を行うものとします。

各研究部・センター実験室(143 m²×4)の仕様

基本仕様に定めるもののほか、以下の要求水準について対応するものとする。

なお、機能用途及び設備備品欄に記載されている設備備品は、国立健康・栄養研究所が対応する。

実験室1	機能用途及び設備備品	要求水準
ヒト 生体材料 実験室	<p>【機能用途】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の遺伝情報となるDNA 試料を扱う <p>【設備備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNA を保管できる冷蔵庫・冷凍庫 ・実験台1 (W3000×D1500×H800mm 程度)(試薬棚付き) ・ドラフトチャンバー(血液・糞便・唾液等の生体試料調製、分析に必要) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験用流し 1 台 (蛇口:湯水混合栓×1、水単水栓×2)
実験室2	機能用途及び設備備品	要求水準
食品 成分分析 実験室	<p>【機能用途】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品分析業務、食品分析関連研究に使用する ・特殊栄養食品の分析を行う。 生体成分の分析を行う。 ・有機溶媒を用いた実験や高温煮沸等の実験を行う。 <p>【設備備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクラバ(排ガス処理装置付き)付きドラフトチャンバー ・スクラバー付きドラフトチャンバー(有機溶媒対応) ・スクラバー付きドラフトチャンバー(酸・アルカリと有機溶媒対応) ・高圧ガスボンベ(水素、アルゴン、圧縮空気) 	

実験室3	機能用途及び設備備品	要求水準
動植物 材料 実験室	<p>【機能用途】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性情報・被害関連情報の収集から得られた健康食品素材の安全性に関する検証実験 健康食品素材を動物に一定期間投与し、一般的な血清酵素活性や肝臓組織の異常の有無、肝臓と消化管における薬物代謝酵素活性・酵素のタンパク・遺伝子発現の解析 ・血液中の投与物質の分析 <p>【設備備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラフトチャンバー（肝臓の組織標本調製、有機溶剤の利用に必要） ・エバポレーター、マイクロプレートリーダー、HPLC ・インキュベーター、調製試薬等を短期間保存する冷蔵庫、PCR装置、化学天秤 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験用流し 1 台（蛇口：湯水混合栓×1、単水栓×2）
実験室4	機能用途及び設備備品	要求水準
実験室	<p>【機能用途】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験中は有資格者以外の立ち入りを禁止する。 ・実験中は扉、窓を閉める。 ・揮発性有害化学薬品を使用する。 ・放射性物質は使用しない。 ・前面開口部の流入空気により作業員への感染を防止 ・HEPA フィルターからの無菌空気により、実験物の無菌操作及び試料間の相互汚染を防止 ・HEPA フィルターより排気をろ過し、環境を保護 <p>【設備備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクラバー付きドラフトチャンバー（有機溶媒対応） ・スクラバー付きドラフトチャンバ 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンバー(キャビネット)からの排気はスクラバーにより処理し、HEPA フィルターによりろ過した後、単独陰圧ダクトにより屋外排気

	<p>ー(酸・アルカリと有機溶媒対応)</p> <ul style="list-style-type: none">・クラス 2 バイオハザードキャビネット(タイプB1)・オートクレーブ	
--	--	--

国立健康・栄養研究所共用実験施設の仕様

基本仕様に定めるもののほか、以下の要求水準について対応するものとする。

なお、機能用途及び設備備品欄に記載されている設備備品は、国立健康・栄養研究所が対応する。

A. 医学検査施設	198		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
①医学検査測定室	72	【機能用途】 1) 採血 2) エコー測定 3) PWV(脈波伝播速度)測定 4) FMD(動脈硬化検査)/生理機能測定 5) 体組成測定(体脂肪率等) 6) 身体測定(腹囲・腰囲等) 7) MMSE(認知症検査) 8) 食事調査 9) 個別面談調査	可動式の仕切りを設け、最大 6 室(各 12 室)とすることが可能とする。また、2 室または 3 室を 1 室として使うことも可能とする。 実験用流し・・・1 台(蛇口:湯水混合栓×1) 電話 1 台 血液等の汚染を容易に除去できる床、壁
②被験者説明室	45	【機能用途】 被験者の控室 被験者への実験説明 被験者からの同意取得 被験者の待機 集団で実施可能な簡易なアンケート調査 被験者に実験食を提供する場合は、食事できる場としても利用する。	電話 1 台 入口は廊下から同じ高さで、部屋は 1 段上がりでフローリング
③基礎代謝測定室	45	【機能用途】 基礎代謝等の測定 【設備備品】 被験者を寝かせて基礎代謝を測定するためのベッド 8 台	流し・・・1 台(蛇口:湯水混合栓×1) 電話 1 台 天井からパーティションで 2 部屋もしくは 3 部屋に仕切れること ベッド間の間隔は 2 メートル以上確保する
④採尿・採便室	18	【機能用途】 尿検体、便検体の採取	個室トイレ(和式×2、洋式×2)を設置 流し・・・3 台(蛇口:湯水混合栓×1)
⑤検体分析室	18	【機能用途】 尿検体、便検体の分析	採尿・採便室に隣接 分析室に関しては特に換気が重要 流し・・・3 台(蛇口:湯水混合栓×1) 電話 1 台

B. ヒューマン カロリーメーター	143		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
①チャンバー室	104	【設備備品】 3.8m×2.9mのチャンバー(2基) <設置に必要なもの> ・ 給水系統(通常の水) ・ 排水配管 ・ 汚水配管(チャンバー内のトイレ用) ・ 給気系統(新鮮空気) ・ 排気系統(給気系統と離れていること) ・ ガス栓(キッチン用) ・ 換気扇(キッチン用) ・ インターネット LAN ・ デジタルアンテナ線(チャンバー内の TV 用) ・ 火災報知器, スピーカー, 非常灯など	詳細については、施工業者(富士医科産業(予定))と事前に協議すること。 被験者に食事を提供するための調理室(冷凍冷蔵庫、電子レンジ・オーブン等) 18 m ² を含む。 データ処理 PC Desk 用スペース 15 m ² を含む。 <必要電気容量> 3φ AC200V 60Hz:300A 1φ 3W 100/200V 60Hz:150A <設置天井高さ> H 3500 [mm] <空調冷媒配管長さ> 屋上などの室外機設置スペースからの距離(エアコン・冷凍機等の冷媒配管長)が 50 m以下 <騒音・振動> チャンバー内のトレッドミル(ランニングマシン)による振動が発生するので、必要ならば防振対策
②仮眠室	12	【機能用途】 測定中は常時、研究者が滞在し、被験者の体調管理を行う 【設備備品】 シャワー設備 ベッドとデスク	
③機械室	27	【機能用途】 分析に使用する低温水の供給	低温循環水槽 3 基、Flow System3 基、冷凍機 3 基、校正ガス、高精度質量分析計 Thermo Fisher Prima PRO 2 基が設置できること <騒音・振動> 機械室は 55[dB]程度の騒音が発生するので、必要ならば、防音対策を講じること

C. 低温実験室	35		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
低温実験室	35	【機能用途】 実験室全体を低温(4℃)とし、低温環境下において、実験を行う 1回の作業時間は1時間程度 【設備備品】 実験台・・・1台 四方の壁に収納棚	<ul style="list-style-type: none"> ● 空調設備 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 24時間 365日、室温を4℃±1度に維持できる個別空調 ● その他 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 出入り口に前室を設けること ➢ 2名の研究者が同時に作業できること

D. 細胞培養室	75		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
細胞培養室	75	【設備備品】前室(15 m ²) クリーンベンチ 4 台	培養室(60 m ²)、前室(15 m ²)とする 前室、培養室ともに通常の照明の他に ON/OFF 可能な紫外線ランプを取り付ける 前室から培養室への出入り口は引き戸とし、履物を交換するスペースを設ける 培養室及び培養前室に菌のコンタミネーションを防ぐため、HEPA フィルターを通して換気する 培養室及び培養前室の壁は菌や埃の付着が少ないもの、培養室の床は培養に適したものとする

E. 共同実験室	313		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
①汎用実験室	71	【機能用途】 各研究部の研究者が必要に応じて、その都度機器を設置して使用する	
②光学機器室	60	【機能用途】 有機溶媒を使用する 【設備備品】 光学分析機器 スクラバ付きドラフトチャンバー	
③RNA 抽出室	30	【機能用途】 RNA抽出を行う 有機溶剤を使用する 【設備備品】 スクラバ付きドラフトチャンバー	
④微量元素分析室	45	【機能用途】 食品分析業務に係る原子吸光光度計と誘導結合プラズマ関連、及び 2 重標識水の解析を行う アセチレンガスを使用する 【設備備品】 微量元素分析機器 スクラバー付きドラフトチャンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・前室を設ける(微量元素分析室内の空気を清浄に保つため必要) ・原子吸光光度計と接続された排気装置 屋外に設置されたアセチレンガスボンベと原子吸光光度計を接続する設備 (原子吸光分析では、分析試料中の重金属が励起状態の原子蒸気となり、屋外への排出が必要) ・誘導結合プラズマ質量分析計と接続された排気設備 (誘導結合プラズマ質量分析計では、試料を灰化する際に用いる硫酸や硝酸が分析中にミストとなることから、屋外への排出が必要 なお、高周波誘導結合プラズマ法では試料や分析法によっては、有害なガスが発生することもある) ・誘導結合プラズマ発光分光分析装置と接続された排気設備 (誘導結合プラズマ発光分光分析装置では、空気を高温にした際に

			産生される窒素酸化物の屋外への排出が必要)
⑤超遠心機室	16	【設備備品】 超遠心機 (超遠心機が正常に作動するよう、必要に応じて除振装置を設置)	
⑥顕微鏡室	16	【設備備品】 位相差顕微鏡 蛍光顕微鏡	暗室仕様
⑦凍結乾燥室	45	【設備備品】 凍結乾燥器	
⑧染色室	30	【機能用途】 染色作業を行う クライオスタット(切片作成の機械)を設置有機溶媒を扱う 【設備備品】 有機溶剤対応スクラバ付きドラフトチャンバー	

F. 暗室	22		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
暗室	22	【設備備品】 暗室:実験台・・・2台(試薬棚付き) 前室:収納棚	暗室及び前室を設置 暗室:現像を行うための特殊照明が必要 暗室:現像のために試薬を使うので換気設備が必要 暗室:実験用流し・・・1台(蛇口:湯水混合栓×1、水単水栓×3) 暗室:電話1台

G. 滅菌消毒室	22		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
滅菌消毒室	22	【機能用途】 機材の滅菌消毒作業を行う 廃棄物の滅菌消毒を行う 【設備備品】 オートクレーブ	

H. 試料保管室	176		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
①冷凍保管室	116	【機能用途】 ・ 長期間保存する試料を冷凍して保管しておくためのスペース	空調設備の使用や要望 室温温度を通常 28℃以下、最高時 35℃以下に維持できる空調・換気設備 電源(100V, 200V)

		<ul style="list-style-type: none"> 現在、各研究室、共通機器室にある試料保管用の冷凍庫をまとめて設置するスペース 【設備備品】 <ul style="list-style-type: none"> 大型冷凍庫(プレハブ式 18 立方m、庫内温度-20～30℃、外寸 W3,600×D2,700×H2,800mm)1基 冷凍庫(庫内温度-80℃、容量 500L、外寸 W800×D900×H2,000)48 台(6 研究部×8 台) 	単相 100V 250W/台(冷凍庫用) 三相 200V 1.5kw(大型冷凍庫用) 商用電源遮断時にも 24 時間以上の自家発電及び無停電電源の確保 電話 1 台
②低温保管室	60	【機能用途】 <ul style="list-style-type: none"> 低温(4℃)で長期間保存する試料を保管しておくためのスペース 分析業務の食品を保管する 餌や試薬を保存する 【設備備品】 <ul style="list-style-type: none"> 低温実験にも対応可能な大型保冷库(庫内温度 2℃～14℃、容量 1,300L、外寸 W1,500×D900×H2,000 mm) 6 台 保冷库(庫内温度 2℃～14℃、容量 600L、外寸 W800×D800×H2,000 mm)12 台 	空調設備の使用や要望 室温温度を通常 28℃以下、最高時 35℃以下に維持できる空調・換気設備 電源 単相 100V 300W/台(保冷库用) 大型保冷库 単相 100V 350W/台(大型保冷库用) 商用電源遮断時にも 24 時間以上の自家発電及び無停電電源の確保 電話 1 台

I.運動負荷施設	126		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
①運動負荷実験室	66	【機能用途】 テッドミルとエルゴメータによる運動負荷測定 【設備備品】 フォースリンク社(オランダ)製テッドミル S4000(外形寸法 1,600×3,000mm、重量 500Kg)同等品(据置)	実験用流し…1 台(蛇口:湯水混合栓×2) 電話 1 台 天井高:3.5 m 床面タイル張り、テッドミルは重量に耐えうる仕様
②運動負荷実験準備室	15	【機能用途】 運動用具、ストレッチマット等の保管	
③運動負荷実験管理室	15	【機能用途】 実験室	電話 1 台
④男性更衣・シャワー室	15	【機能用途】 更衣室(男性用) シャワー室(男性用) 【設備備品】 貴重品用ロッカー	運動負荷実験室と隣接していること 室温が管理可能な個別空調 100V(三口)のダブルコンセント 2 個(更衣室) 鏡台付き洗面台…1 台(蛇口:湯水混合栓×1)(更衣室) シャワー設備の設置 床面積:13 m ² (更衣室)、2m ² (シャワー室) 更衣室の入口に下足スペース、更衣室は一段高くしたタイル張り
⑤女性更衣・シャワー	15	【機能用途】	男性更衣・シャワー室と同じ

室		更衣室(女性用) シャワー室(女性用) 【設備備品】 貴重品用ロッカー	
---	--	--	--

K.運動フロア	105		
部屋の名称	面積(m ²)	機能用途及び設備備品	要求水準
運動フロア	105	【機能用途】 測定・介入場所 体力測定 運動介入実験における運動の指導、実施	運動負荷実験室と隣接していること 同時に5人程度の被験者に対して、運動を指導できること 特別の器具・備品は不要だが、転倒、衝突時等においても、けが等を起こさないように、安全に配慮した構造であること 室温が管理可能な個別空調 100V(三口)のダブルコンセント10個 200V(三口)のシングルコンセント2個 流し・・・1台(蛇口:湯水混合栓×1) 電話1台 天井高 3.5m 運動に適した床材(高弾性衝撃吸収床材(JIS A 6519「体育館用鋼製床下地構成材」85G以下の床材)

国立健康・栄養研究所 新庁舎(大阪・健都)の所要面積

健栄研専用面積 (I + II + III)	3,270 m²
-------------------------------	----------------------------

I. 事務部門 434 m²

所長室	66 m ²
総務部 [健栄研総務課他]	88 m ²
研修展示室	126 m ²
TV 会議室	105 m ²
休養室	49 m ²

II. 研究室(各研究部・センター＋共用実験施設) 2,359 m²

各研究部・センター執務室 (含む会議室) 572 m²

各研究部・センター実験室 (143 m² × 4) 572 m²

共用実験施設 1,215 m²

<A. 医学検査室> 198 m²

【内訳】

①医学検査測定室	72 m ²
②被験者説明室	45 m ²
③基礎代謝測定室	45 m ²
④採尿・採便室	18 m ²
⑤検体分析室	18 m ²

<B. ヒューマンカロリメーター> 143 m²

【内訳】

①チャンバー室	104 m ²
②仮眠室	12 m ²
③機械室	27 m ²

<C. 低温実験室> 35 m²

<D. 細胞培養室> 75 m²

<E. 共同実験室> 313 m²

【内訳】

①汎用実験室	71 m ²
②光学機器室	60 m ²
③RNA 抽出室	30 m ²
④微量元素分析室	45 m ²
⑤超遠心機室	16 m ²
⑥顕微鏡室	16 m ²
⑦凍結乾燥室	45 m ²
⑧染色室	30 m ²

<F. 暗室> 22 m²

<G. 滅菌消毒室> 22 m²

<H. 試料保管室> 176 m²

【内訳】

①冷凍保管室	116 m ²
②低温保管室	60 m ²

<I. 運動負荷施設> 126 m²

【内訳】

①運動負荷実験室	66 m ²
②運動負荷実験準備室	15 m ²
③運動負荷実験管理室	15 m ²
④男性更衣・シャワー室	15 m ²
⑤女性更衣・シャワー室	15 m ²

<J. 運動フロア> 105 m²

Ⅲ. 付属施設 477 m²

倉庫 71 m²

機材備品庫 263 m²

保管庫 66 m²

サーバー室(健栄研全体の情報システム) 35 m²

実験系廃棄物保管室 42 m²

【備考】

*常時勤務する労働者数は100人と想定している。

*各施設の面積は概算である。